



3月24日に設立した「おおぶ森の守り人」の皆さん。夢は、山主が自らの山で林業を行う「自伐林業」を育てることだ。



まつくら しげお
松村 繁広さん（陣内）

この駅
チェーンソーを活用し、
森のエネルギーで
エコライフ！

大津の健やかな森づくりを目指す「おおぶ森の守り人」。その事務局長を務める松村繁広さんは、これまで利用価値がないと思われていた間伐材の新たな利用方法を仲間たちと模索しながら「森」の有効利用に取り組んでいる。彼が「森」に対して抱く思いとは。

松村さんは昨年、大津まちおこし大学で「OZUげんき塾」が運営する自然環境学科の学科生となった。太陽光、風力、水力、バイオマスなどの可能性に挑戦しようとしているのを知り、興味を持ったのだ。「父親が経営していた製材所には水車があり、水力を利用していたんです。自分は生まれたときから自然エネルギーの恩恵を受けていたことに気づいたんです」と松村さんは話す。自然エネルギーへの興味は、彼の奥深くに刻み込まれていた何かが反応した結果なのかもしれない。

まちおこし大学での活動を終えた松村さんたちは、最も身近なお金がかからないバイオマスの可能性を探求することにした。それが「おおぶ森の守り人」だ。現在は、災害時の固形燃料用として町内の避難所数カ所に薪の備蓄小屋を設置したり、チェーンソー操作講習会を開催して伐採作業を行うボランティアグループを組織したりするなど精力的に活動を行っている。「価値がないと思われる木の処分にも困っている人の相談窓口になりたい」と思っています。松村さんは語る。

「薪は長期保存できる固形燃料として役立つので、家庭での備蓄も考えて欲しいですね」と話す松村さんにとって、森を愛することは呼吸と同じくらい自然な行為なのだ。

こゝの声

▼広報を作っている
と、さまざまな事情が重なった結果、急に取材をお願いしなくてはならないことがありますが、これまでにも何度かありましたが、その度、どの人も快く取材を引き受けられるので、毎月なんとか広報を発行することができています。私も、誰かが困っているときに少しでも助けになりたいと思っていました。（一）
▼嫌なことがあったとき、悩んでいることがあるとき、そのことを誰かに話して聞いてもらうだけで気持ちが楽になることがあります。私の場合、その相手は家族や友人であることが多く、それは普段からの信頼関係に基づいたものでしょう。お互いに何でも話せる、聞くことができるような関係を築いていきたいですね。（二）

UD FONT
風や水や土の音が聞こえてくるような、ユニークなデザインフォントを使用しています。

広報 おおぶ 2012 10

発行・編集 大津市・企業課
〒869-1292 熊本町池部大津市大津1233番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

〒100 印刷 株式会社
印刷 株式会社

Proud!
Japan
真日本大震災の復興を支援しよう

大津の夏。
地蔵まつりの夏。

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報
おおぶ

今月のみどころ

特集 自殺を防ぐために
私たちにできること～小さな気づき大きなチカラに～

障害者虐待防止法ってどんな法律？

障害者の安定した生活や社会参加を助けるために
みんなで虐待の防止に取り組ましよう

クローズアップ大津人

松村 繁広さん

10
OCTOBER 2012